

あなたの身近な人が
食事が食べられなく
なったら…

We hope follow your
own natural style to
the end of life.

HONSE(ホンズ)

最期まで
あなたらしくいてほしい

人工栄養の導入を決定する際に適切
な意思決定ができるように導くガイド
ラインが日本老年医学会において策定さ
れました。

HONSE(ホンズ)はガイドラインを基に
作られた人工栄養の導入を検討する話
し合いの前に必要な準備をするための
ツールです。これから、患者さんの意思
やこれまでの人生を振り返り、病院で
の検査の結果や、嚥下機能の評価など
を参考にして、医療・介護関係者、家
族・親戚などで今後の患者さんの栄養
の摂取法を考えていきましょう。

人工栄養の導入を検討するときには医
師や看護師、ソーシャルワーカー、ケア
マネージャーなど患者さんに関わって
いる人たちに参加してもらい、みんなで
一緒に考えていきましょう。

以下のようなことでお困りの時
にはご相談ください

- ・家族への人工栄養のことで悩
んでいる
- ・人工栄養について教えてほし
い
- ・自分が食べられなくなったとき
のことについて考えてみたい

〈ガイドラインについてはこちらを
ご参照ください〉

・高齢者ケアの意思決定プロセス
に関するガイドライン:人工的
水分・栄養補給の導入を中心として
(日老医誌 2012;49:632—645
https://www.jstage.jst.go.jp/article/geriatrics/49/5/49_632/_article/-char/ja/)

・地域版人工的水分・栄養補給の導入
ガイドラインと支援ツール作成の試み
(日老医誌 2014;51:271—276
https://www.jstage.jst.go.jp/article/geriatrics/51/3/51_271/_article/-char/ja/)



岩手県立二戸病院

岩手県二戸市堀野字大川原毛 38-2

電話 (0195)23-2191

FAX (0195)23-2834

<http://www.pref.iwate.jp/info.rbz?nd=82&ik=3&pnp=82>

一緒に考えてみませんか？
口から食べられなくなったときのことを



口から食べられなく
なるのはどんな時？

病気や加齢によって、飲み込む力
(嚥下機能)が低下したり障害が残
ったりすると、口から食べることが
難しくなることがあります。そのよう
な状況で口から食べることを続け
ると、誤嚥(食べ物が入ってしま
う)が起こり、窒息や肺炎を起
こしてしまうこともあります。

人工栄養ってなに？

口から食べることが難しくなっ
たり、食べれていても栄養が不十分
なときに栄養や水分を人工的に補
給するものです。

- ・胃ろう
 - ・経鼻経管栄養法
 - ・中心静脈栄養法
 - ・末梢点滴
- などさまざまな方法があります。

老衰や病気の終末期などでは人
工栄養が患者さんにとってかえっ
て苦痛となることもあります。その
ため患者さんにとって最適な栄養
方法を考えていく必要があります。

HONSE (ホンズ)

人工栄養について考える前に幾つか質問をさせていただきます。

Q1 あなたとご本人の関係について教えてください。

・あなたの親、配偶者、兄弟、親戚ですか？

Q2 あなたと同じくらいご本人のこれまでの生き方についてご存知の方はいらっしゃいますか？

Q3 今後の栄養方法を決める話し合いにその方は参加することができますか？

Q4 (介護サービスを利用している方)
その話し合いに施設職員やケアマネージャーに参加していただいても構いませんか？

Q5 あなたは以前、ご本人と一緒に暮らしたことがありますか？

Q6 あなたが以前にご本人と話したのはいつごろですか？
また、何の話をしたか覚えていますか？

Q7 あなたはご本人がどのような人生を歩んできたかわかりますか？

・考え方
・性格
・夢、希望
・大切にしているもの

※ささいなことでも結構です。ご本人について知っていることを教えてください。

Q8 ご本人は思ったことをすべて話すような人ですか、それとも心に留めておくような人ですか？

Q9 現在ご本人は、自分の今後の治療や栄養方法について話すことができますか？

Q10 これまであなたはご本人と食事がとれなくなったときについて話し合ったことがありますか？

Q11 あなたはご本人と終末期の医療（人工呼吸器の装着や心肺蘇生など）、人工栄養（胃ろう、経管栄養、点滴など）について話したことがありますか？

Q12 ご本人の主たる介護者はどなたですか？

Q13 介護を始めること、継続することや、やめることは介護者の生活に何か影響がありますか？

・介護が生きがいである
・介護をすることで仕事に影響を与える など

Q14 ここ数か月でご本人の状態に変化はありましたか？

Q15 食事がとれなくなった原因を主治医から聞いていますか？

Q16 ご本人は日中目を覚ましていますか？

Q17 あなたが話しかけたとき、ご本人はあなたのことがわかりますか？
わからなくとも何か反応はありますか？

Q18 ご本人はあなたの顔を見て、声を聞いて、触れられて、何か感じていますか？

Q19 ご本人に食べる意欲があるでしょうか？

Q20 ご本人には食べ物を食べる喜びがわかっているでしょうか？

Q21 ご本人は今後、どこで過ごすことを望んでいるでしょうか？

Q22 あなたはご本人が今後、どこで過ごすことを望んでいると思われますか？

Q23 これからご本人をお世話、介護するうえで何か心配なことはありますか？

Q24 ご本人は今の状態が続くことを希望しているでしょうか？

Q25 あなたの身近な人に理想的な人生（特に終末期）を送ったと思える人がいましたか？

Q26 もし、あなたがご本人のような状態になったときは、このような状態が続くことを希望しますか？

Q27 あなたは自分が食事をとれなくなったときの治療や延命治療について誰かに伝えていますか？

Q28 もしあなたが食事を摂れない状態となり、自分の意思を伝えることができなくなったら今後の方針はどなたにゆだねますか？